

平成31年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市教育委員会

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「平成31年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

平成31年4月18日(木)

4 調査の内容

(国語、算数・数学、英語) 教科に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語、数学及び英語とする。 ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数・数学においては、記述式の問題を一定割合で導入する。英語においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」に関する問題を出題し、記述式の問題を一定割合で導入するとともに、「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式によるものとする。 	
	【小学校 国語・算数 各45分】	
	【中学校 国語・数学 各50分】	
	【中学校 英語「聞くこと」「書くこと」「読むこと」 45分】 【中学校 英語「話すこと」 5分】	
生活習慣や学習環境等 に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢がありますか、授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、携帯電話等の使用時間、読書時間、勉強時間の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など
【小学校・中学校とも20分程度】		

桶川市の調査結果の概況

小学校

<教科に関する調査> は全国平均正答率を上回ったもの

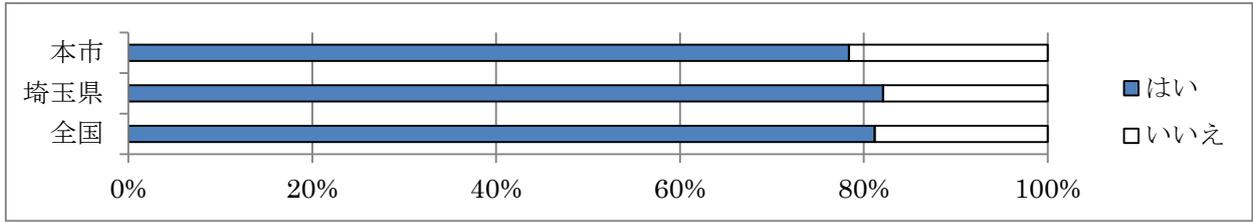
国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
話すこと・聞くこと	3	70.8	71.6	72.3
書くこと	3	50.4	52.9	54.5
読むこと	3	80.6	81.1	81.7
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	56.9	57.1	53.5

算数				
学習指導要領の領域	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答 率 (%)
数と計算	7	59.2	62.5	63.2
量と測定	3	47.4	51.7	52.9
図形	2	73.1	75.4	76.7
数量関係	7	65.6	68.3	68.3

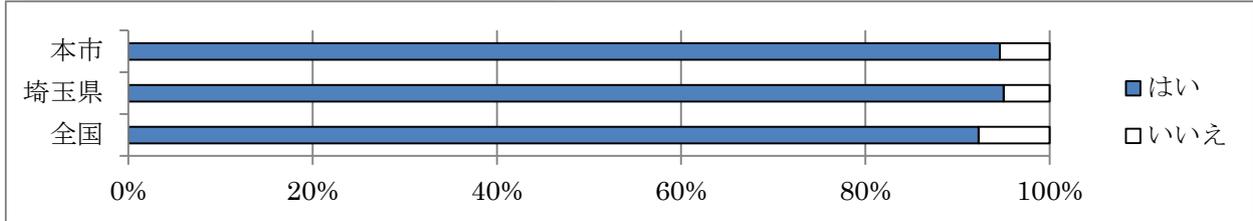
＜児童への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う
 いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

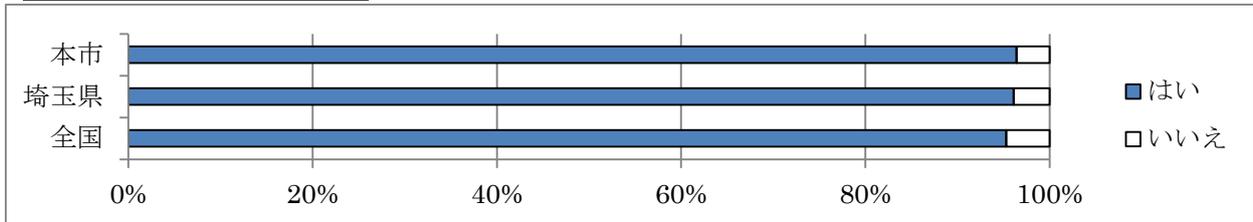
自分には良いところがある。



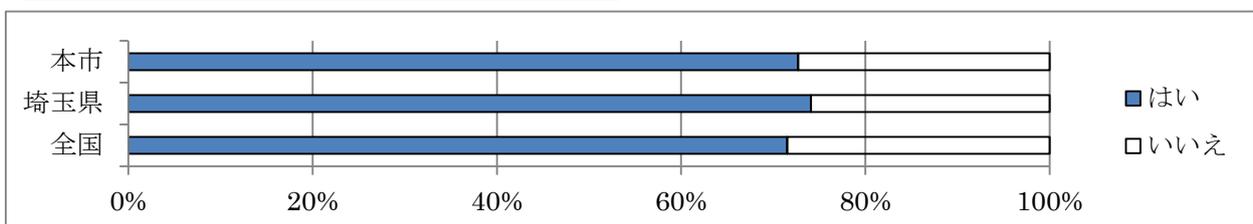
学校のきまり（規則）を守っている。



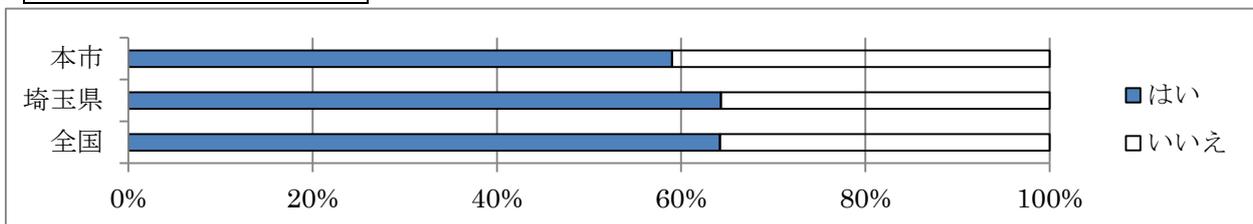
朝食を毎日食べている。



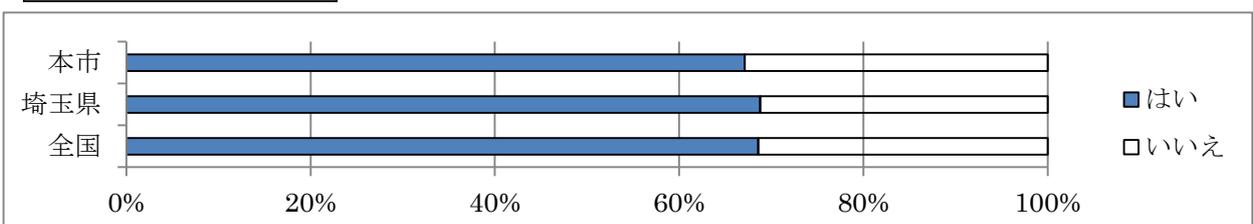
家で、自分で計画を立てて勉強している。



国語の勉強は好きだ。



算数の勉強は好きだ。



中学校

<教科に関する調査> は全国平均正答率を上回ったもの

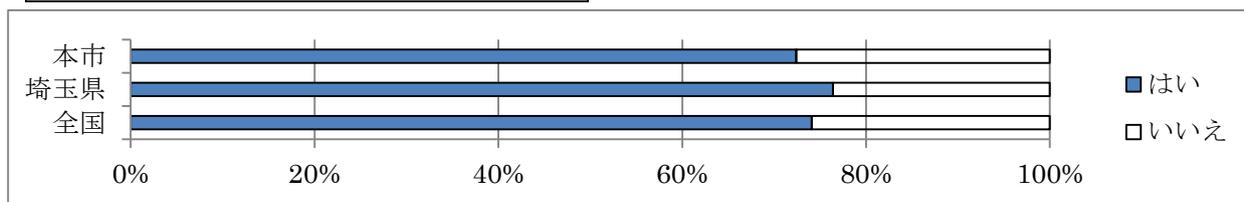
国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
話すこと・聞くこと	3	74.7	69.6	70.2
書くこと	2	86.3	83.0	82.6
読むこと	3	75.2	72.3	72.2
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	71.3	67.0	67.7

数学				
学習指導要領の領域	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と式	5	64.0	62.4	63.8
図形	4	74.3	72.0	72.4
関数	3	39.2	39.3	40.8
資料の活用	4	56.8	56.3	56.3

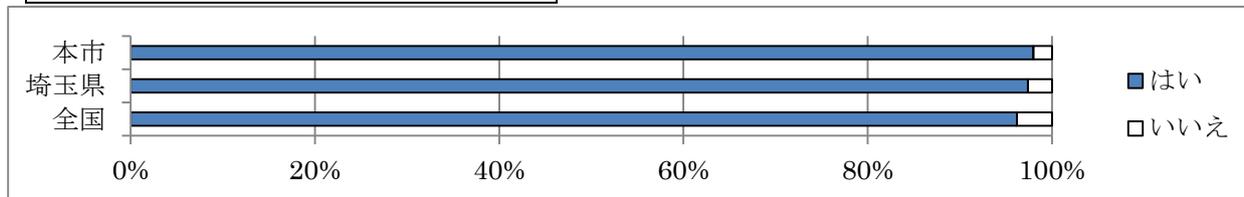
英語				
学習指導要領の領域	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
聞くこと	7	70.2	68.9	67.9
話すこと (参考値)	—	—	—	30.8
読むこと	6	58.5	56.0	55.6
書くこと	8	48.1	45.9	45.8

＜生徒への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

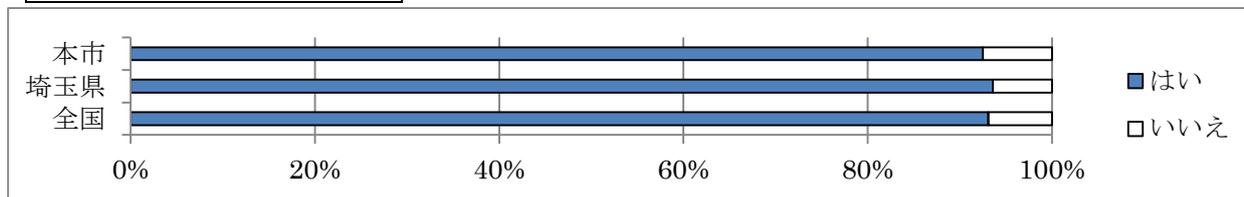
自分には、よいところがあると思う。



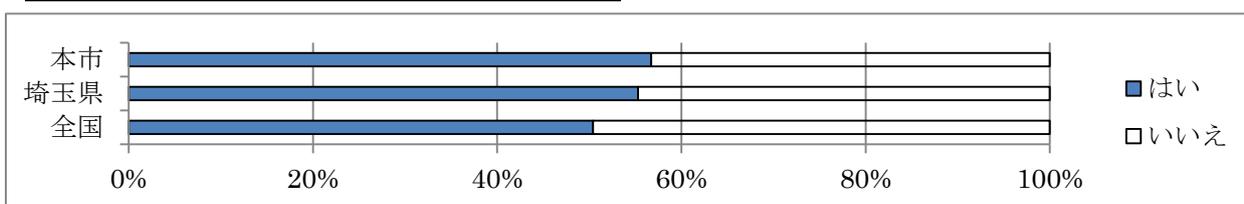
学校のきまり（規則）を守っている。



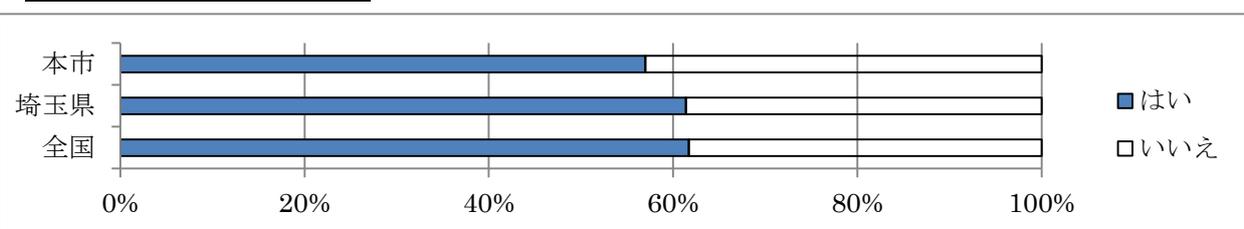
朝食を毎日食べている。



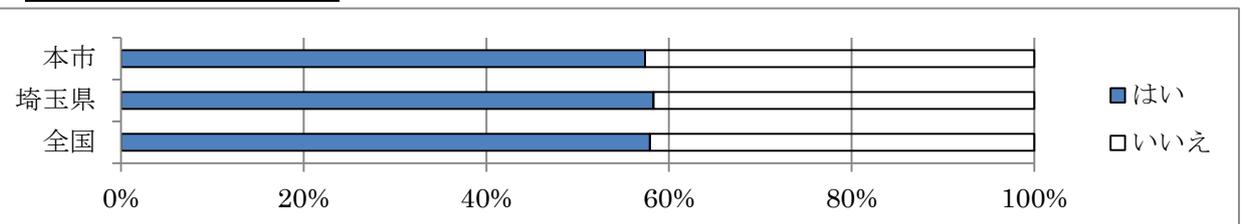
家で、自分で計画を立てて勉強している。



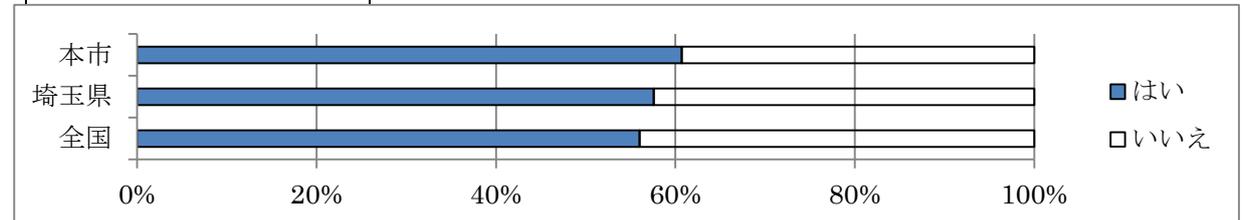
国語の勉強は好きだ。



数学の勉強は好きだ。



英語の勉強は好きだ。



桶川市の調査結果の分析・考察

<小学校 国語>

【領域別の分析】

結果からわかること

- ◆「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域は全国平均正答率を下回りました
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、全国の平均正答率を上回りました。

分析

- ◆「話すこと・聞くこと」では、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることに課題があります。「読むこと」では、目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくことに課題があります。「書くこと」では、図表やグラフなどを用いた目的を捉えたり、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書いたりすることに課題があります。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、漢字を文の中で正しく使うことができています。

【問題例①】

問題 1 一

公衆電話について調べたことを【報告する文章】で〈資料2〉と〈資料3〉をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する

- 1 現在と過去の様子を並べて示し、二つのがいを伝えるため。
- 2 内容ごとに分類して示し、大まかな特ちょうを伝えるため。
- 3 年度ごとの数値をグラフで示し、移り変わりを伝えるため。
- 4 記号や印などを使って示し、実際の位置を伝えるため。
- 5 説明したい場所やものを写真で示し、実際の様子を伝えるため。

正答 〈資料2〉…2、〈資料3〉…4

本市平均正答率 65.6%

全国平均正答率 71.2%

誤答類型	反応率(%)	
	本市	全国
〈資料2〉○ 〈資料3〉×	9.3	8.5
〈資料2〉× 〈資料3〉○	14.1	11.5
上記以外の解答	10.6	8.2

<分析>

- ◆誤答の多くは、図表やグラフなどを用いた目的を適切に捉えることができていないことが考えられます。
- ◎報告したり説明したりする場合により分かりやすくするためにどのような図表やグラフを用いるのがよいか等の選択する機会を設けてまいります。

【問題例②】

問題 1 四(2)

公衆電話について調べたことを【報告する文章】の [] の1文を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す

公衆電話を必要なときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。

※1文目の終わりの5文字と、2文目の「そこで、」に続く5文字を書く。

正答 思いました。そこで、わたしは、
とします。そこで、わたしは、

正答率 本市44.0% 全国 47.8%

無解答率 本市16.0% 全国 11.3%

<分析>

- ◆【報告する文章】を書き終えて、読み返した際に、文が長いと考えたので、読み手に伝わりやすくするために書き直している、ということをもまずは踏まえる必要があります。誤答や無解答の多くは、文と文との意味とのつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができていないと考えられます。
- ◎指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、正しく使う学習を繰り返して、授業の中で行ってまいります。

ご家庭での会話の中でも、お子様の説明を聞きながら、わかりやすく言い直したり、接続詞の使い方などをお話しいただいたりして、コミュニケーション能力の醸成につなげてください。

<小学校 算 数>

【領域別の分析】

結果からわかること

◆「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」のすべての項目で、県平均正答率・全国平均正答率を下回っています。特に「量と測定」では、全国平均正答率と比べ5.5ポイント、県平均正答率と比べ4.7ポイント下回っており、大きな差異が見られました。

分析

◆示された場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、所要時間を求める問題では、単位量当たりの大きさが捉えられていない児童が多く、課題が見られました。
◆記述式での無解答率の割合が県や全国と比べて全体的に高くなっています。

【問題例①】

問題 3 (2)

【ことねさんの計算の仕方】

$$\begin{array}{r} 400 \div 25 = \square \\ \downarrow \times 4 \quad \downarrow \times 4 \quad \text{変わらない} \\ 1600 \div 100 = 16 \\ \text{だから } 400 \div 25 \text{ の答えは } 16 \text{ です。} \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 90 \div 18 = \square \\ \downarrow \div 9 \quad \downarrow \div 9 \quad \text{変わらない} \\ 10 \div 2 = 5 \\ \text{だから } 90 \div 18 \text{ の答えは } 5 \text{ です。} \end{array}$$

【ゆいなさんがまとめたこと】

ひき算では、ひかれる数とひく数に同じ数をたしても、ひかれる数とひく数に同じ数をひいても、差は変わりません。このことを使うと、計算しやすいひき算の式で考えることができます。

【ゆいなさんがまとめたこと】と同じように、わり算についても【ことねさんの計算の仕方】をもとにまとめるとどのようになりますか。下の□の中に、「わられる数」「わる数」「商」の3つの言葉を使って書き

わり算では、

このことを使うと、計算しやすいわり算の式で考えることができます。

ましょう。

【正答】わり算では、わられる数とわる数に同じ数をかけても、わられる数とわる数に同じ数でわっても、商は変わりません。

平均正答率 本市 24.9% 全国 30.9%
無解答率 本市 16.7% 全国 10.8%

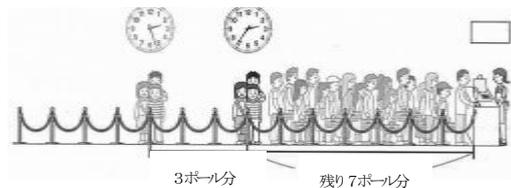
<分析>

◆減法の計算の仕方を基にして、除法に関して成り立つ性質を見出すことを苦手としている児童が多くいます。
◎習ったことをわかりやすく人に説明する活動などを通して、知識や技能を活用する場面を設けて、論理的に考える習慣をつけてまいります。

【問題例②】

問題 4 (3)

はるとさんたちは限定商品を買いたいと思い、列に並んでいます。3ポール分進むのに9分かかり、残り7ポール分になりました。はるとさんたちは24分以内に着くことができるかを考えました。この進みぐあいで進むとすると、残り7ポール分進むのにかかる時間は何分ですか。求め方を言葉や式を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。さらに、24分以内に着くことができるかどうかを下の1と2から選んで、その番号を書きしょう。



- 1 着くことができる。
- 2 着くことができない。

【正答】【求め方】 $9 \div 3 = 3$ で1ポール分には3分かかります。残り7ポール分なので、 $3 \times 7 = 21$ で21分間かかります。

【答え】21(分間)

【番号】1

平均正答率 本市 50.2% 全国 59.7%
無解答率 本市 3.6% 全国 3.5%

<分析>

◆異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、その比べ方や表し方の理解が不十分です。
◎場面の状況を解釈して、数量の関係に着目して、筋道を立てて考えいくことが大切です。そのうえで数学的な表現を用いて処理して、そこで得られた結果から判断するような、見通しとまとめ、振り返りのある授業展開を工夫してまいります。
◎実生活のなかで、簡単な計算を活用したり、数量の関係に着目できるように働きかけたりすることも大切です。

<小学校 質問紙調査>

【質問例①】

質問

5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか。

回答結果

「ほぼ毎日」「週1回以上」と答えた児童の割合 本市 40.3% 全国 30.6%

<分析>

- 「ほぼ毎日」「週1回以上」と回答した児童の割合は、9.7ポイント全国と比較して上回っています。
- 本市においては、全国に比べ、ICTの活用が積極的になされていることがわかります。
- ◆クロス集計の結果から、本市においては、活用頻度と教科における平均正答率が比例していないことがわかります。
- ◎ICTの活用方法を工夫して、わかりやすい授業を行い、知識や技能の習得に努めてまいります。そこで得た知識や技能の活用につなげられるように、主体的で対話的な展開を大切にまいります。

【質問例②】

質問

読書は好きですか。

回答結果

「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と答えた児童の割合 本市 31.9% 全国 25.0%

<分析>

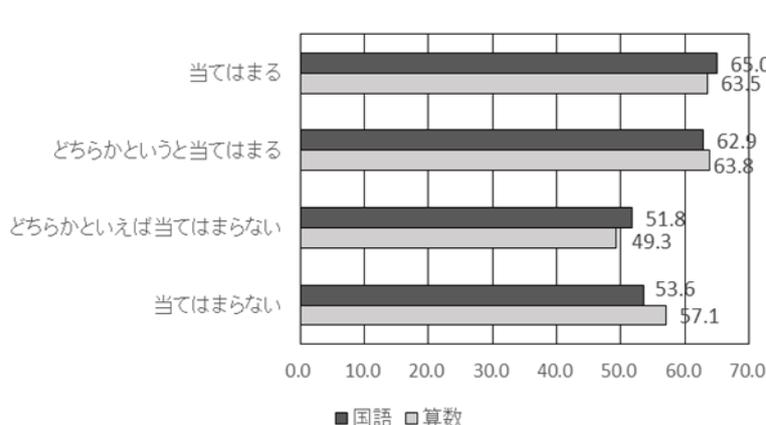
- ◆「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童の割合は、全国と比較して6.9ポイント、下回っています。
- ◆読書が好きな児童と、読書が好きではない児童との比較では、国語・算数ともに平均正答率に10ポイント以上の差が見られます。読書週間の定着が学力の定着に影響していると考えられます。
- ◎学校でも朝読書の励行など、読書活動の充実を図っております。
- ◎ご家庭でも、テレビやパソコン等の映像等に偏ることなく、本のもつ魅力を伝えていけるようにご協力ください。

クロス集計の結果

「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」×「教科に関する調査」(正答率)

選択肢	児童数の割合	国語 (平均正答率)	算数 (平均正答率)
当てはまる	66.3%	65.0%	63.5%
どちらかといえば、当てはまる	27.3%	62.9%	63.8%
どちらかといえば、当てはまらない	5.1%	51.8%	49.3%
当てはまらない	1.0%	53.6%	57.1%

国語と算数の平均正答率



生活リズムを確立している児童と、確立していない児童の間で、教科における平均正答率の差が大きいです。ご家庭で起床・就寝などの時間を決めて、規則正しい生活習慣を作り、学力向上につなげていけるようお願いいたします。

<中学校 国語>

【領域別の分析】

結果からわかること

○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」四つ全ての領域で、全国及び県の平均正答率を上回りました。

分析

- 「相手に分かりやすく伝わる表現について理解すること」や、「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつこと」などは、高い定着が見られます。
- ◆「話し合いの話題や方向をとらえて自分の考えをもつこと」や、「封筒の書き方を理解して書くこと」にはやや課題が見られました。
- ◆「自分の考えを相手に分かりやすく伝える」ことにやや課題が見られました。

【問題例①】

問題 2 【話す・聞く能力】

話し合いの場面で「まだ決まっていないこと」について、条件にしたがって自分の考えを述べる問題。

正答例

「決まっていないこと」を明確にし、解決できる具体的な案を書いている。
話し合いの場面ととらえ、実際に話すように書いている。

本市平均正答率 65.7%
全国平均正答率 62.2%

【問題例②】

問題 3 一 【書くこと】

「地域と私たちとのつながり」というテーマで書いてある意見文（下書き）を読み、読み返した後でさらにわかりやすい文章にするために、書き加える言葉を選択する問題。

正答 3

本市平均正答率 91.3%
全国平均正答率 87.6%

<分析>

- 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすくわかりやすい文章にすることができるとかをみる問題です。資料として、「意見文の下書き」が示されており、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することができていました。選択肢の中には「たとえ…でも」「いくら…でも」といった表現の仕方が使われています。その表現について理解することで正しい解答を選択することができます。
- 本問題は、国語科等で育成される書く能力を活用し、伝えたい事柄を明確にして表現することをみる問題になっています。実際に自分が意見文を書く際にも、根拠を明確にして書く手段として、複数の事例やデータなどを示すことも取り入れて指導しています。また、読み手側に意見を伝えるため、表現方法を工夫したり、読み手の反応を考えながら書いたりすることを指導しています。あわせて文章を書く際には、接続語の使い方や、文章全体の構成等なども考えるよう指導してまいります。



<分析>

- ◆自分の考えを述べるためのポイントとして、①話し合いの話題をとらえること②話し合いの方向を見通すこと③自分なりの考えをもつこと④自分の考えを相手に分かりやすく伝えることが必要となってきます。4つのポイントをすべて満たすことができていない解答や無解答など、本市だけでなく全国的に課題が見られました。
- 話し合い活動に取り組む際や意見交換をする際に、内容を整理し要点をまとめる力が求められます。授業においても、課題に沿った考えをもち、自分の意見を相手に分かりやすく伝えられるよう語彙を増やしたり、相手の反応を見ながら話したりするよう意識して指導してまいります。

<中学校 数学>

【領域別の分析】

結果からわかること

○全体では、全国の平均正答率と同程度となり、「図形」の領域では約2ポイント上回りました。

◆「関数」の領域では、全国の平均正答率を1ポイント下回りました。

分析

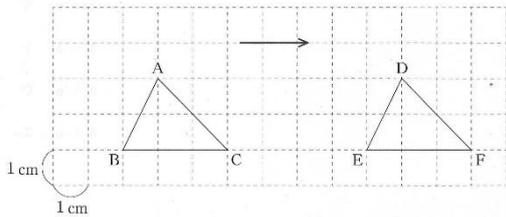
○中学校第2学年までの各領域の内容について、全国平均正答率と比べて同等となっています。

◆正答数と生徒数の分布で比べると、16問正答した生徒数の数が全国よりも少なくなっています。

【問題例①】

問題 3

△DEF は、△ABC を矢印の示す方向に平行移動したものです。何 cm 平行移動したものでか。



正答

7 cm 本市平均正答率 85.2%
 全国平均正答率 83.6%

<分析>

誤答例

4 cm と解答 本市 8.9% 全国 8.7%
 10 cm と解答 本市 1.4% 全国 1.6%
 その他 本市 4.0% 全国 5.5%
 無解答率 本市 0.5% 全国 0.7%

○本市平均正答率は、全国に比べて1.6ポイント上回っています。無解答率も全国と比べると0.2ポイント低くなっています。

◆誤答では、4 cm と解答した生徒が多くなっています。これは、頂点Cと頂点Eの平行移動の長さであり、対応する頂点の理解が十分でないと考えられます。

◎図形の平行移動については、中学校1年生において学習しています。平行移動は、2つの図形の間隔を調べ、性質や関係を見いだすことができれば、解くことができます。図形は、見直しをもって作図したり、関係について調べたりして理解を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培うことができるので、観察、操作や実験などの活動を通じた学習を展開してまいります。

【問題例②】

問題 6 (2)

容量が500Lである冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、購入してx年間使用するときの総費用をy円として、総費用が等しくなるおよその使用年数を考えます。

ア、イのどちらかを選び、それを用いて総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明しなさい。

ア 使用年数と総費用の関係を表す式

イ 使用年数と総費用の関係を表すグラフ

正答 (例)

【ア】使用年数と総費用の関係から連立方程式をつくり、それを解いて使用年数の値を求める。

【イ】グラフに表し、その交点の座標から、使用年数の値を読み取る。

本市平均正答率 31.2%
 全国平均正答率 34.7%

<分析>

この問題は「用いるもの」を明確にした上で、その「用い方」を記述する問題です。

誤答例 (ア、イ選択の有無を除く)

どちらか一方のみの記述 本市 11.8% 全国 10.8%
 その他 本市 21.3% 全国 23.6%
 無解答率 本市 35.5% 全国 30.7%

◆本市平均正答率は、全国平均正答率に比べて3.5ポイント下回りました。無解答率も、4.8ポイント上回り、方法・手順の説明に課題が見られました。

◆誤答では、アを選択したものの、①方程式②使用年数の値、どちらの記述もない解答の割合が高く、用い方の理解に課題があります。

◎他者と協働的に問題を解決したり、問題解決の過程を自ら振り返ったりする際に必要な、方法や手段を的確に記述したり、伝え合ったりする能力を育む学習を展開してまいります。

<中学校 英語>

【領域別の分析】

結果からわかること

○全体で、全国平均正答率より約2ポイント上回りました。「聞くこと」「読むこと」「書くこと」すべてで上回り、本年度は参考値ですが、「話すこと」でも各校で2.1ポイントから10.1ポイント上回りました。

分析

○評価の観点別にみると、「外国語理解の能力」と「言語や文化についての知識・理解」で平均正答率が上回りました。

○全問題で全国と比較して、無解答率が下回りました。

◆「外国語表現の能力」で平均正答率が下回り、「書くこと」では、語句の意味理解や語形変化については、全国平均正答率を上回りましたが、与えられた情報に基づいて文を書くことに課題があります。

◆「聞くこと」では、2つ以上の情報を正確に聞き取ることに課題があります。

【問題例①】

問題 「聞くこと」3

天気予報を聞いてピクニックに行くのに最も適する曜日を選択する。

【放送文】 Good morning. It's Thursday, April 11th. Here is the weather. It was nice and warm yesterday, but not today. It will be cloudy and cold in the morning, and sometimes rainy in the afternoon. Tomorrow will be sunny but much colder. The weather will be nice on Saturday, so it will be a good day to go outside and enjoy the sun. On Sunday, it will be rainy again.

【選択肢】(問題用紙に記載)

1 Thursday 2 Friday 3 Saturday 4 Sunday

正答

3 Saturday 本市平均正答率 88.7%
全国平均正答率 82.0%

<分析>

誤答例

4 Sunday と解答	本市 5.2%	全国 8.4%
2 Friday と解答	本市 5.2%	全国 6.2%
1 Thursday と解答	本市 0.9%	全国 3.3%
無解答率	本市 0.0%	全国 0.2%

◆誤答を選んだ生徒は、似ている Sunday と Saturday の区別がつかないのではなく、曜日の名前について理解できていないことが考えられます。

○本市平均正答率は、全国平均正答率に比べて6.7ポイント上回っています。曜日の名前について、概ね理解できています。まとまりのある英文を聞いて必要な情報を聞き取る力が身に付いています。

◎英文の話されている場所など状況を理解することや、すべてを詳細まで聞き取るのではなく、問題文から聞きたい情報ははっきりさせて、その部分に注意して聞いていくように取り組んでまいります。

【問題例②】

問題 「書くこと」9(3)②

次の①から③は、ある女性に関する現在の情報を示しています。これらの情報を用いて、彼女について説明する英文をそれぞれ書きなさい。

①出身 Australia ②住んでいる都市 Rome
③ペットの有無 ×

正答 She lives in Rome.

準正答 she lives in Rome.

本市平均正答率 30.7%
全国平均正答率 32.9%

<分析>

誤答例

動詞の活用形の誤り	本市 21.1%	全国 15.8%
語や文法事項の誤り	本市 20.9%	全国 23.0%
無解答率	本市 7.0%	全国 9.3%

◆本市平均正答率は、全国平均正答率に比べて2.2ポイント下回りました。三人称単数現在形の動詞の活用形を正確に書くことに課題が見られました。

◆「書くこと」で2人称単数現在や過去時制についての本市平均正答率が全国平均正答率に比べて6~7ポイント上回っていることから、三人称単数現在における語形変化に課題があることがわかります。

○本市無解答率は、全国無解答率に比べて2.3ポイント下回りました。英語で短文を書くことについては、間違いを恐れず書こうとする意欲が身に付いています。

◎三人称単数現在形については、1年生の2学期に学習しています。実際のコミュニケーション場面では、第三者について話題に挙げることも多いので、教室の環境の中でも、家族や友達や憧れの人を話題に挙げるような場面を設けて取り組んでまいります。

<中学校 質問紙調査>

【質問例①】

質問

学級の友達と（生徒）の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

回答結果

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合
 本市 79.1% 全国 72.8%

<分析>

- 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国の平均を 6.3 ポイント上回っています。
- また、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか」の質問についても「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国の平均を 16.7 ポイント上回っています。
- ◎話し合う活動や全体の前で発表する活動は、各教科・領域で多く設定しています。主体的・対話的であるだけでなく、自分の考えを深めたり広げたりする授業展開もされています。今後もさらに指導方法の工夫改善を行ってまいります。

【質問例②】

質問

1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか。

回答結果

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合
 本市 78.2% 全国 62.9%

<分析>

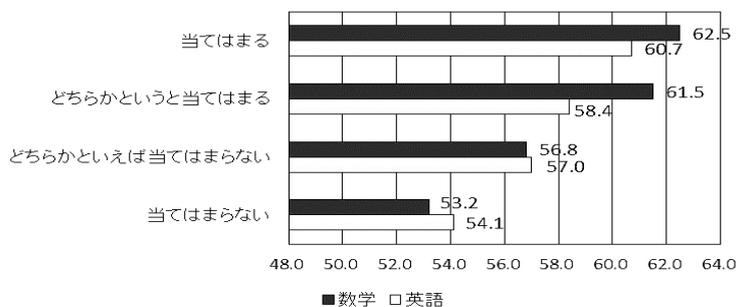
- 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国の平均を 15.3 ポイント上回っています。
- また「1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか」の質問についても、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は全国の平均を 13.2 ポイント上回っています。
- ◎思考力、判断力、表現力を身につけていけるように、自分の考えや気持ちを伝え合う活動や、スピーチやプレゼンテーションなど、発表する機会を、意図的に設けてまいります。

クロス集計の結果

「自分には、よいところがあると思いますか」×「教科に関する調査」（正答率）

選択肢	生徒数の割合	英語 (平均正答率)	数学 (平均正答率)
当てはまる	32.3%	60.7%	62.5%
どちらかといえば、当てはまる	40.1%	58.4%	61.5%
どちらかといえば、当てはまらない	16.6%	57.0%	56.8%
当てはまらない	11.0%	54.1%	53.2%

英語と数学の平均正答率



グラフから「当てはまる」と答えた生徒ほど英語、数学において、正答率が高いことがわかります。ご家庭でも、お子様の良いところを褒めて、自己肯定感を育むことが大事だということがわかります。

＜埼玉県学力・学習状況調査の概要＞



※「平成31年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年、中学校第1・2・3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

平成31年4月11日（木）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

中学校第1学年 国語、数学

中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

桶川市の調査結果の概況

小学校

＜教科に関する調査＞ は県平均正答率を上回ったもの

国語	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
話すこと・聞くこと・書くこと	5	40.7	38.0	4	37.1	37.0	4	46.0	48.4
読むこと	4	63.1	61.5	9	49.3	49.8	9	64.9	65.8
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	62.5	60.2	17	55.3	57.2	17	62.9	63.5
※学力の伸びた児童の割合					↑	↑↑		↑↑↑↑	↑↑↑↑

算数	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
数と計算	12	74.2	71.7	12	73.3	74.0	12	67.3	67.7
量と測定	6	67.4	62.2	6	62.0	63.4	7	53.6	55.3
図形	6	70.7	68.4	6	58.2	61.9	7	56.7	56.9
数量関係	6	79.2	77.2	8	64.4	67.7	6	60.6	62.0
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑↑	↑↑↑↑		↑↑↑↑	↑↑↑↑

※学力の伸びた児童の割合…前年度から学力が伸びた児童の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

＜児童への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：本市の達成率、下段：県の達成率、 は80%以上 (％)

内容	項目	第4学年	第5学年	第6学年	
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る				
	① 登校時刻	91.3	96.1	95.5	
		91.7	94.0	94.6	
	② 授業の開始時刻	92.5	93.7	95.2	
		92.9	94.3	95.2	
	2 身の回りの整理整頓をする				
	③ 靴そろえ	84.3	83.4	87.5	
		84.8	86.0	88.9	
④ 整理整頓	82.3	82.1	84.9		
	83.8	83.4	84.3		
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする				
	⑤ あいさつ	82.6	81.5	82.0	
		81.4	80.2	80.8	
	⑥ 返事	90.3	89.7	89.4	
		90.7	88.5	88.4	
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける				
	⑦ ていねいな言葉づかい	88.1	89.9	90.2	
		87.4	86.6	88.0	
⑧ やさしい言葉づかい	85.1	82.6	84.8		
	85.1	83.9	83.9		
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る				
	⑨ 学習準備	85.0	87.9	89.7	
		80.9	85.2	85.9	
	⑩ 話を聞き発表する	84.2	78.0	76.6	
		81.3	75.4	74.5	
	6 生活のきまりを守る				
	⑪ 集団の場での態度	84.1	86.8	86.1	
		85.2	85.3	85.8	
⑫ 掃除・美化活動	92.3	90.5	90.8		
	91.1	89.5	87.7		

中学校

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

国語	第1学年			第2学年			第3学年		
	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
話すこと・聞くこと・書くこと	4	50.9	51.7	4	59.3	53.9	5	52.7	50.7
読むこと	9	57.9	57.1	9	53.8	51.3	9	51.2	49.1
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	70.0	69.2	17	65.8	64.8	16	58.3	56.6
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑↑↑	↑↑↑↑		↑↑↑	↑↑↑		↑↑↑	↑↑↑

数学 (内容は算数)	第1学年		
教科の領域等	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
数と計算	13	60.8	59.7
量と測定	6	53.8	51.4
図形	7	64.9	64.2
数量関係	6	63.7	63.3
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑↑↑	↑↑↑↑

※学力の伸びた生徒の割合…
前年度から学力が伸びた生徒の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、
↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、
↑=50%未満

数学	第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
数と式	12	58.2	59.1	12	59.0	58.6
図形	8	61.3	60.8	7	57.6	55.1
関数	7	62.6	61.3	7	61.9	60.6
資料の活用	5	59.4	57.8	6	60.0	58.3
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑↑	↑↑↑		↑↑↑↑	↑↑↑↑

英語	第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
聞くこと	10	65.0	62.1	10	66.2	61.7
話すこと		-	-		-	-
読むこと	20	56.7	54.6	22	57.0	54.5
書くこと	5	54.9	51.8	6	54.6	50.9
※学力の伸びた生徒の割合					↑↑↑↑↑	↑↑↑↑↑

＜生徒への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：本市の達成率、下段：県の達成率、 は80%以上 （%）

内容	項目	第1学年	第2学年	第3学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	98.0	97.7	97.2
		98.1	97.5	96.6
	② 授業開始時刻	98.7	97.7	98.2
		98.2	97.5	97.2
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	91.8	93.1	93.1
		92.3	92.4	92.2
④ 整理整頓	85.4	86.6	85.2	
	85.3	86.1	86.3	
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	90.9	85.9	86.1
		84.0	84.9	84.0
	⑥ 返事	94.5	91.8	92.0
		90.5	88.7	88.6
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
	⑦ ていねいな言葉づかい	94.8	91.9	93.6
		93.8	90.7	91.8
⑧ やさしい言葉づかい	94.2	88.3	88.5	
	91.4	86.3	87.1	
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	94.7	93.0	93.2
		92.1	89.9	89.6
	⑩ 話を聞き発表する	80.1	76.2	74.0
		76.6	71.9	71.8
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	95.6	94.1	97.0
		94.9	93.5	94.7
⑫ 掃除・美化活動	89.0	88.9	86.7	
	86.5	85.6	84.5	

桶川市の学力向上の取組

教育委員会では、学力向上を教育行政の最重要課題として位置付けており、各学校におけるより一層の学習指導の改善・充実に向け、支援を行っています。「確かな学力」を身に付けさせるために、「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」、「思考力・判断力・表現力等の育成」、「主体的に学習に取り組む態度の涵養」を重点に取り組んでいるところです。

また、各学校においては、児童生徒の現状を全国や埼玉県の学力・学習状況調査の結果や各種調査を分析して、その結果に至った要因や課題を明らかにし、具体的な学力向上プランを作成し、授業改善等に取り組むことを確認しています。教育委員会といたしましては、市内全小・中学校への学校訪問を行い、学校課題研究の充実や学力向上に向けた授業改善等についての指導・助言を通して、各学校の取組の推進を支援してまいります。

1 学校課題研究（校内研修）の充実

- (1) 研究主題に迫るための授業研究会の実施
- (2) 今年度の研究発表校

学校名	研究領域	研究主題等	研究発表会
加納中学校	学習指導	主体的に学び、確かな学力を育む指導方法の研究 ～生徒の学習状況に応じた学びの充実を目指して～	令和元年 10月30日
朝日小学校	体育科 体力向上	体を動かすことを楽しみ、共に磨き合う朝日っ子 ～「できる」喜びを味わわせる体育授業の工夫・改善～	令和元年 11月22日
日出谷小学校	算数科	自己の考えを持ち、主体的に学ぶ児童の育成 ～数学的な見方・考え方を深める授業づくりを通して～	令和2年 1月31日

2 具体的な指導方法の工夫・改善

- (1) 主体的な学びの実現のために
 - ① 意欲を高めることにつながる授業導入の工夫と課題に対応したまとめを行う。
 - ② 学習課題（ねらい）を明示し、見通しをもたせ、追究方法や手順等の選択・決定を支援する。
- (2) 対話的な学びの実現のために
 - ① 活動に応じた学習形態を設定する。
 - ② 意見を交換したり、発表をしたり、聞いたりしながら考えをまとめていく授業を展開する。
- (3) 深い学びの実現のために
 - ① 考えを可視化させる思考ツールを積極的に活用する。
 - ② 予想の場や試行錯誤する場の設定を行う。
 - ③ 実験や体験活動を充実させる。

3 個に応じた指導の充実

- (1) TTや少人数指導などきめ細やかな指導の充実
 - *TT（ティーム・ティーチング）…1教室に複数の教師が入り、分担・協力して指導する方法
 - *少人数指導…学級よりも少人数の集団で授業を行う方法

(2) 各種補助員・支援員等の配置

個に応じた指導を充実させるため、各校に必要なに応じて、特別支援指導補助員・学校図書館教育補助員、教育指導補助員、小1プロブレム学級支援員、理科支援員、日本語指導員を配置する。

保護者の皆様へ

全国学力・学習状況調査の質問紙調査の「自分には、よいところがあると思いますか」という質問の回答では、小学校では78.4%、中学校では72.4%が肯定的な回答をしていますが、全国と比べるとそれぞれ1.7ポイント、2.8ポイント低くなっています。自己肯定感、子供たちが未来を生き抜くために必要とされる「学びに向かう力」につながると言われています。お子さまが自身の良さに気付けるように、ご家庭でも「褒める」場面を増やしていただくようお願いいたします。

また、教科の学習においては、基礎的・基本的な知識より活用に課題が見られます。ご家庭でも学校で習ったことを話題にさせていただいたり、実生活との関わりを考えたりしながら、活用の力を育めるようご協力ください。

令和元(平成31)年度 桶川市教育委員会学校教育 指導の重点・努力点

桶川市教育行政基本方針の基本理念 「生きる力を育み未来へはばたく桶川の教育」

- 基本目標 I 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実
- II 豊かな心の育成と人権意識の高揚
- III 健やかな体の育成
- IV 家庭・地域の教育力の向上
- V 生涯にわたる学びとスポーツの支援
- VI 伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進

学校経営 ○学校教育目標の実現を目指した全教職員が相互に協力する教育活動を積極的に展開する <u>小・中学校9年間を見通した一貫性のある学校教育の推進(I)</u> 学習環境の整備・充実(I) 教職員の資質能力の向上(I) 学校応援団の充実(IV)	<ul style="list-style-type: none">○ 学校教育目標の具現化○ 地域や各学校、児童生徒の実態に即した教育課題の明示とそれを解決するための創意工夫のある教育課程の編成と実施、評価○ 全教職員の協力体制の確立○ 研修の充実と指導力の向上○ 家庭や地域社会との積極的な連携、異校種間を含めた学校間の連携・協力
学級経営 ・児童生徒理解を深め、信頼関係や好ましい人間関係を育てるとともに、魅力ある学級づくりに努める	<ul style="list-style-type: none">○ 学校の教育目標の実現を目指し、創意工夫を生かした学級経営の推進○ 児童生徒一人一人が様々な活動に自主的、実践的に取り組む学級経営の推進○ 児童生徒の発達を踏まえた計画的・継続的な評価の実践○ 児童生徒一人一人のよさや可能性を伸ばす指導の工夫○ 特別な教育的支援を必要とする児童生徒一人一人に応じた指導や支援の実践
学習指導 ○生きる力を育む授業の創造を目指す 一人一人の確かな学力を育む教育の推進(I) 主体的・対話的で深い学びの実現の推進(I)	<ul style="list-style-type: none">○ 学習意欲の向上と家庭学習を視野に入れた指導の推進○ 児童生徒一人一人に応じた指導の充実○ 英語教育・ICT教育の推進○ 各種調査(学力・学習状況調査等)結果の分析を活用した学力向上の取組の充実
生徒指導 ○心豊かな児童生徒の育成を目指す 心豊かな児童生徒の育成を目指す生徒指導の推進(II) いじめ・不登校の未然防止の推進(II)	<ul style="list-style-type: none">○ 基本的な生活習慣の育成と生き甲斐のある学校生活の実現○ 全教職員の共通理解に基づいた校内指導体制の確立と積極的な生徒指導の推進○ 小・中連携を始め、家庭・地域社会、諸機関との連携の推進
進路指導・キャリア教育 ○自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、進路指導・キャリア教育の充実を図る	<ul style="list-style-type: none">○ 全教職員による協力的指導体制の整備と系統的・組織的なキャリア教育の推進○ 小・中学校の連携と家庭・地域の理解が得られる体制づくり○ 児童生徒理解に基づく進路指導・キャリア教育の推進
道徳教育 ○自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、よりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する 豊かな心を育む教育の推進(II) 「特別の教科 道徳」における指導と評価の充実(II)	<ul style="list-style-type: none">○ 道徳教育の重点目標を明確にした全体計画の活用による、意図的、計画的な教育活動の充実○ 「規律ある態度」をはじめとする基本的な生活習慣や社会生活上のきまり、基本的なモラルの育成に関わる指導の充実○ 道徳科をはじめ、教育活動全体を通じた関連的、発展的な指導の充実
総合的な学習の時間 ・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する	<ul style="list-style-type: none">○ 地域や学校、児童生徒の実態等に応じた全体計画の作成・改善○ 指導と評価の計画の改善・充実に向けた組織的・計画的な取組○ 保護者や地域の人々の教育力を活用した体制づくりの推進
特別活動 ○様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や自己の課題を解決することを通して、資質・能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none">○ 学校の創意工夫を生かした指導・評価計画の活用と改善○ 学級や学校での生活をよりよくするための学級活動の推進○ 個を生かす児童会・生徒会活動の展開
学校教育相談 ○児童生徒が抱える悩みや不安などを解消するために本人又は保護者などへの支援を通じて、よりよい人格の形成を図る いじめ・不登校の未然防止の推進(II)	<ul style="list-style-type: none">○ 学校教育相談体制の充実(さわやか相談員、教育相談員、SC、SSWの配置、教育センターの運営、適応指導教室の運営、特別支援教育との連携)○ 学校教育相談の積極的推進(不登校児童生徒の登校支援)○ 相談機関等との連携○ 各種調査結果の分析を活用した児童生徒理解の推進
体育 ○健やかな体と豊かな心をもった児童生徒を育成する 体力向上を目指した学校体育の充実(III) 外部の専門的な指導方法を取り入れた体育授業の推進(III)	<ul style="list-style-type: none">○ 心と体を一体としてとらえ、児童生徒一人一人が運動の楽しさや喜びを味わえる指導の実践○ 体力向上を目指した体育的活動の実践○ 体育施設・設備の整備と事故防止の徹底
健康教育 ○生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を主体的に実践できる児童生徒を育成する 食育を通じた健康教育の充実(III) 家庭・地域と連携した安全教育・安全管理の推進(III)	<ul style="list-style-type: none">○ 健康の大切さを認識し、健康課題を解決するための資質・能力の育成○ 自他の生命を尊重し、自他の安全に配慮した行動できる資質・能力の育成○ 食に関する正しい知識と望ましい食習慣の育成○ 家庭・地域社会・関係機関等と連携した取組の実践
人権教育 ○人権問題を正しく理解し、人権感覚を身に付け、様々な人権課題を解決しようとする児童生徒を育成する 学校教育における人権教育の推進(II)	<ul style="list-style-type: none">○ 全教職員の共通理解に基づく推進体制の確立○ 児童生徒の発達段階を踏まえた全体計画や指導計画に基づく着実な実践○ 指導内容・指導方法の工夫・改善と「人権感覚育成プログラム」の活用○ 家庭・地域社会等との連携
特別支援教育 ○全ての学校において、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を推進する 共生社会を支える特別支援教育の推進(I)	<ul style="list-style-type: none">○ 適切な就学相談の充実○ 児童生徒一人一人の実態に応じた教育的支援の充実(こぼの教室・通級指導教室)○ 特別支援教育推進を図る校内支援体制の充実○ 研修の充実と指導力の向上
国際理解教育 ・グローバル化に対応する人材の育成を推進する	<ul style="list-style-type: none">○ 外国語能力の基礎や表現力等のコミュニケーション能力の向上○ 外国人児童生徒、帰国児童生徒の支援○ 日本や地域の伝統や文化等の認識を深める教育の推進
情報教育 情報及び情報手段を主体的に収集・選択し、活用できる情報活用能力を育成する 時代の変化に対応する教育の推進(I)	<ul style="list-style-type: none">○ 児童生徒や地域の実態等を踏まえ、情報教育を位置付けた教育計画の充実○ ICTを活用した学習指導の充実と諸条件の整備○ 情報モラルを身に付け、情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できる学習活動の充実
環境教育 ・環境を大切にすると主体的に行動できる能力や態度を育てる	<ul style="list-style-type: none">○ 全体計画・年間計画に基づいた指導の充実○ 持続可能な社会の実現のため、環境を守ろうとする心と態度の育成○ 地域の自然環境や社会環境等を生かした環境教育の推進
ボランティア・福祉教育 ・社会福祉への関心と理解を深め、互いに支え合い、豊かに生きていこうとする心と態度を身に付ける	<ul style="list-style-type: none">○ 発達段階に即したボランティア活動・福祉体験の実践○ 学校や地域の実態に即したボランティア活動・福祉教育の推進
男女平等教育 ・児童生徒一人一人が個性や能力を発揮して、自らの意思により行動できるよう、男女平等の意識を高める教育を推進する	<ul style="list-style-type: none">○ 教育活動全体を通じた組織的・継続的な指導の推進○ 発達段階に応じた指導内容・指導方法の工夫・改善○ 家庭や地域社会との連携
学校図書館教育 ・学校図書館の利用に必要な基礎的な知識や方法の習得及び自発的な学習の態度の育成に努める	<ul style="list-style-type: none">○ 学校図書館の利用を位置付けた指導計画の作成○ 学校図書館を利用した学習の充実、情報活用能力の育成○ 市内各図書館と連携した子供読書活動の推進

生きる力を育み 未来へはばたく 桶川の教育



桶川教育の3本柱



確かな学力

◇「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」「思考力、判断力、表現力等の育成」「主体的に学習に取り組む態度の涵養」を目指す学校教育の充実

- ・主体的・対話的で深い学びを目指した授業実践の推進
- ・時代の変化に対応する教育の推進
(英語教育、ICTを活用した教育の推進)
- ・小・中学校9年間を見通した一貫性のある学校教育の推進

豊かな心

◇思いやりの心や規範意識などの豊かな人間性や社会性を育む教育の充実

- ・「特別の教科 道徳」における指導と評価の充実
- ・学校教育における人権教育の推進
- ・心豊かな児童生徒の育成を目指す生徒指導の推進
- ・いじめ・不登校の未然防止の推進
- ・共生社会を支える特別支援教育の推進

健やかな体

◇自ら進んで運動に親しむ資質・能力の育成及び、心身を鍛える体育授業、体育的活動の充実

- ・体力向上を目指した学校体育の充実
- ・外部の専門的な指導方法を取り入れた体育授業の推進
- ・食育を通じた健康教育の推進
- ・家庭・地域と連携した安全教育・安全管理の推進

桶川市教育委員会及び桶川市教育研究会委嘱研究「市内小・中学校」
今年度本発表校 加納中学校（学習指導）令和元年10月30日
朝日小学校（体育）令和元年11月22日
日出谷小学校（算数）令和2年1月31日

平成30・31年度 埼玉県教育委員会委嘱
「博物館・美術館等を活用した子供パワーアップ事業」 桶川小学校 加納中学校
食育指導向上授業研究協議会 加納中学校 令和元年11月19日
生徒指導研究推進モデル校 桶川東中学校 桶川西中学校